

外為マンスリービューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/05/01

米景気と北朝鮮情勢がカギに

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	108円台でひとまず底打ちか 予想レンジ: 108.500~114.500円	2-3
カナダ/円	➡	トランプ米大統領と原油相場に注目 予想レンジ: 79.500~83.200円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



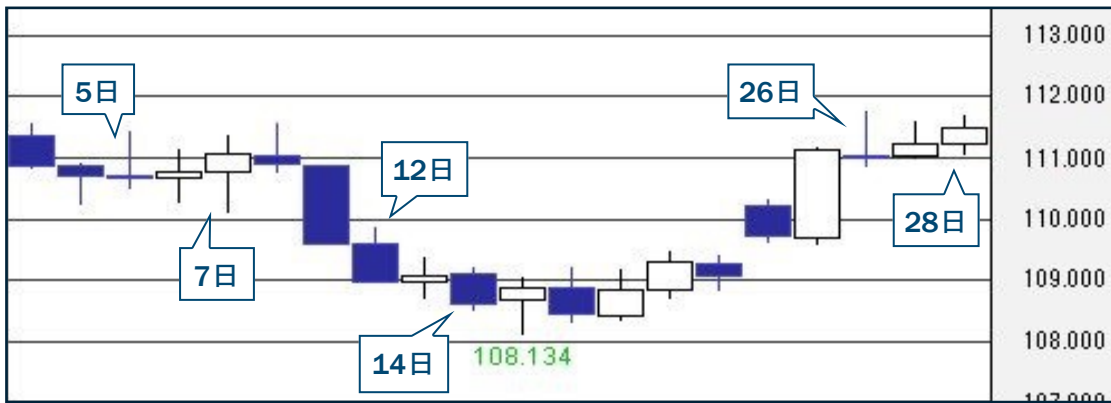
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 4月の推移

4月のドル/円相場は108.134～111.774円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.1%の上昇(ドル高・円安)と、ほぼ横ばい圏の動きであった。北朝鮮やシリアなどの地政学リスクが意識されたほか、米経済指標に弱めの結果が目立った事もあって節目の110円を割り込むなど、前半はドル売り・円買いが優勢の展開。欧米勢がイースター休暇中の17日には108.134円まで下値を切り下げて年初来安値を更新した。ただ、23日の仏大統領選(第1回投票)を波乱なく終えた事や、25日の北朝鮮軍創設記念日に紛争が起きなかった事からリスク回避ムードが緩むと流れが変わった。月末にかけては、本邦機関投資家のドル買い観測などにも支えられてドル買い・円売りが強まり、前半の下げを全て埋める形で反発した。



四本値	
OPEN	111.375
HIGH	111.774
LOW	108.134
CLOSE	111.511

5日	米3月ADP全国雇用者数が26.3万人増と予想(18.5万人増)を大幅に上回るとドルが上昇したが、米3月ISM非製造業景況指数が55.2と予想値(57.0)を下回ると反落。その後、FOMC議事録が公開され「大方のメンバーは再投資政策の変更が今年後半に正当化されると認識」などと、バランスシート縮小に関する議論が進んでいた事が明らかになると米長期金利の上昇とともに再びドルが上昇した。しかし、議事録で「一部のメンバーは株価が非常に高いと見ている」と指摘された事などから米国株が急失速するとまたしてもドルが下落した。
7日	米軍がシリアの空港施設にミサイル攻撃を行ったと報じられると、リスク回避の円買いが強まり、110.10円台まで下落した。しかし、日本株が持ち直すなどショートカバーの動きが強まり、110円台後半へと反発。その後も、米3月雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想(18.0万人増)を大きく下回る9.8万人増に留まると再び110.10円台まで下落したが、失業率が4.5%(予想:4.7%)と2007年5月以来の低水準となった事などから買い戻されるなど底堅く推移。なお、米3月平均時給は前月比+0.2%、前年比+2.7%と予想通りであった。
12日	トランプ米大統領が米紙とのインタビューで「ドルが強くなり過ぎている。これは人々が私を信頼しているためで、私のせいでもある。だが、結果的には打撃となる」「他国が通貨を切り下げの中でドルが強ければ、競争するのは極めて難しい」と述べた事が伝わるとドル売りが活発化。大統領は「金利が引き続き低水準にあることを望む」とも述べており、米長期金利が低下した事もドル/円の重しとなった。
14日	米3月消費者物価指数は前月比-0.3%、前年比+2.4%と市場予想(±0.0%、+2.6%)を下回った。また、米3月小売売上高は前月比-0.2%と予想通りながらも2月分が-0.2%に下方修正(速報時+0.1%)されたため、2か月連続での減少となった。これらを受けて、ドル売りが活発化した。
26日	ムニューシン米財務長官が「本日遅くに税制改革の詳細について発表する」「米史上最大の減税、税制改革になる」などと発言すると111.774円までドル高が進んだが、その後実際に改革案が発表されると一転して米長期金利が低下するとともにドル安に振れた。なお、米ホワイトハウスが発表した改革案は「法人税率15%に引き下げ」「海外還流利益の税率大幅引き下げを検討」「個人税率区分を7区分から3区分へ」などであり、目新しさがなかった上に、具体性を欠いた事から市場の失望を誘った。
28日	米1-3月期国内総生産は前期比年率+0.7%となり、前期(+2.1%)から減速。市場予想(+1.0%)も下回った。ただ、同時に発表された1-3月期雇用コスト指数が前期比+0.8%となり2007年10-12月期以来の高い伸びを示した事などから、米長期金利が一時上昇したため、ドルは堅調に推移した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	1.2540%
HIGH	1.2974%
LOW	1.1564%
CLOSE	1.2619%

米10年債利回

OPEN	2.3928%
HIGH	2.4036%
LOW	2.1629%
CLOSE	2.2802%

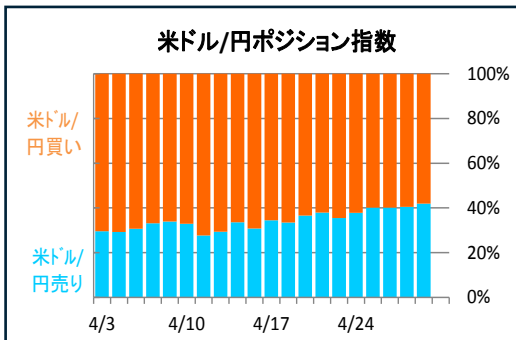
日経平均

OPEN	18988.00
HIGH	19289.43
LOW	18224.68
CLOSE	19196.74

NYダウ平均

OPEN	20665.17
HIGH	21070.90
LOW	20379.55
CLOSE	20940.51

4月のポジション動向



5月の日・米注目イベント

- ・4月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・4月米ADP全国雇用者数(3日)
- ・4月米ISM非製造業景況指数(3日)
- ・米FOMC(2-3日)
- ・3月米貿易収支(4日)
- ・4月米雇用統計(5日)
- ・3月日本国際収支(11日)
- ・4月米生産者物価指数(11日)
- ・4月米小売売上高(12日)
- ・4月米消費者物価指数(12日)
- ・4月米住宅着工件数(16日)
- ・4月米鉱工業生産(16日)
- ・1-3月期日本GDP・一次速報(18日)
- ・4月日本貿易収支(22日)
- ・米FOMC議事録(24日)
- ・4月日本消費者物価指数(26日)
- ・4月米耐久財受注(26日)
- ・1-3月期米GDP・改定値(26日)
- ・5月米消費者信頼感指数(30日)

5月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

ドル/円が月足チャートに残した4月の足型は、長い下ヒゲを伸ばした小陽線となり1-3月の流れ(3連続陰線)が転換点を迎えた可能性を示唆。また、長期トレンドラインである52週移動平均線が、200日移動平均線に続いて緩やかに上向きに転じるなど、チャートフェースは総じてドル高・円安方向に動き出す予兆を示している。こうした流れを確かなものにできるかが5月相場の焦点であり、最大の注目ポイントは米国のファンダメンタルズになりそうだ。チャートがいくら上昇を示唆しても、米国のファンダメンタルズが景気減速を示唆すれば、ドル/円の上昇は覚束ないだろう。次の節目である115円に向けて続伸するためには、米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げが、年内あと2回以上行われるとの見方が定着する必要がある。米第1四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+0.7%と、米国の潜在成長率を下回る伸びにとどまっただけに、第2四半期の始まりである4月分の主要な米経済指標の結果(5日の4月雇用統計、12日の4月小売売上高など)が注目されよう。

そのほか、北朝鮮情勢からも引き続き目が離せない。もし朝鮮半島で武力衝突が起きれば、一時的にせよドル安・円高に振れる公算が大きい。仮に「有事」となっても紛争が泥沼化する可能性は低く、為替相場への影響も長期化する事はないと見るが、短期的には投資家のリスク回避姿勢が強まる可能性が高いため注意が必要だろう。(神田)

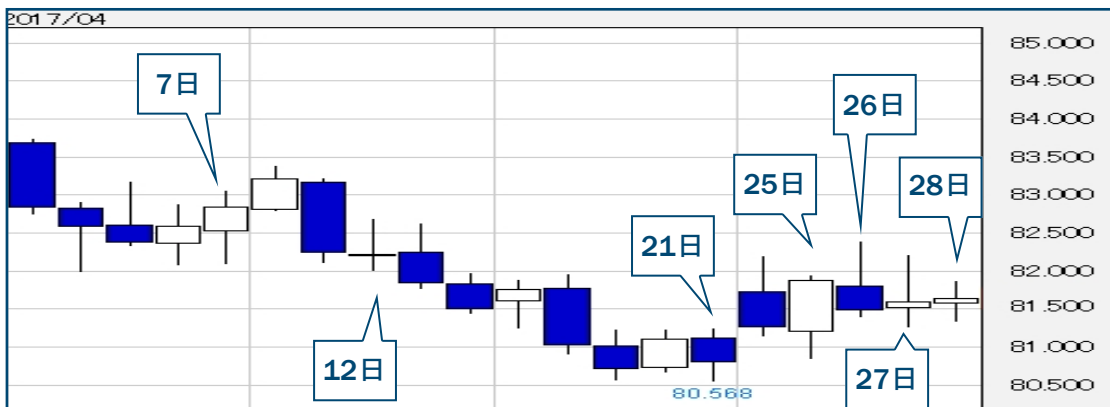
(予想レンジ: 108.500-114.500円)

カナダ/円 4月の推移

CAD/JPY

4月のカナダ/円相場は80.568～83.740円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.3%の下落(カナダドル安・円高)となった。

加中銀(BOC)理事会が無風通過となるなど、前半は決定打を欠く中で概ね82円台前半～83円台半ばで推移。しかし、その後は仏大統領選を前にリスクを取る事に慎重な流れとなる中、5月の石油輸出国機構(OPEC)総会での協調減産延長に懐疑的な見方が浮上してNY原油先物が軟調に推移し、カナダドル売りが強まった。トランプ米政権が北米自由貿易協定(NAFTA)離脱に言及した事も重石となり、21日に2016年11月以来の安値となる80.568円まで下落した。



四本値

OPEN	83.699
HIGH	83.740
LOW	80.568
CLOSE	81.644

7日	加3月雇用統計で、失業率が6.7%、就業者数は1.94万人増(予想:6.7%、0.57万人増)となり、カナダドル買いが優勢となった。その後はドル/円の上昇も追い風となり、83円ちょうど前後まで上昇した。
12日	BOCは事前予想通り、政策金利の据え置き(0.50%)を決定。声明で「現在の金融政策のスタンスは引き続き適切と判断」「インフレ率は一時的な要因が解消されるにつれて数カ月後には低下し、2%に戻ると予想」などの見方が示された。経済見通しについて、2017年が2.6%と1月時点(2.1%)から引き上げられた一方、2018年は1.9%(同:2.1%)と引き下げられた。その後、ポロズ総裁が「必要であれば追加緩和の可能性はある」と述べるも、「現時点では利下げは選択肢にない」とも発言した。
21日	加3月消費者物価指数は、前月比+0.2%、前年比+1.6%と予想(+0.4%、+1.8%)を下回った。これを受けてカナダドル売りが優勢となった。ノバク露エネルギー相の「主要産油国はOPECと非加盟国による減産合意を延長するかどうかについて来月ウイーンで決定する予定」との発言をきっかけに、協調減産延長について懐疑的な見方が浮上したことからNY原油先物が50ドルを割った事も重石となった。
25日	米政府がカナダ産針葉樹材の輸入に平均20%の相殺関税を新たに適用すると発表すると、カナダドルが下落。しかし、北朝鮮軍創設85周年で(市場が懸念していた)核実験やミサイル発射を実施しなかったことから、東アジアの地政学的リスクが和らぎ、円売りが優勢となった事から反発した。
26日	加2月小売売上高は、前月比が-0.6%、自動車を除いた売上高の前月比は-0.1%(予想:±0.0%、-0.3%)となり、反応は限定的。その後「米政府がNAFTA離脱の大統領令を検討」との報道を嫌気して、カナダ売りが優勢となった。
27日	「(米加メキシコ)3カ国首脳はNAFTA再交渉を可能にする事で合意」「米大統領が加首相とNAFTAを終結させない事で合意」と報じられると、カナダドル買いが優勢となった。
28日	加2月国内総生産(GDP)は前月比±0.0%と予想(+0.1%)を下回った。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	1.622%
HIGH	1.627%
LOW	1.430%
CLOSE	1.547%

N Y 原 油

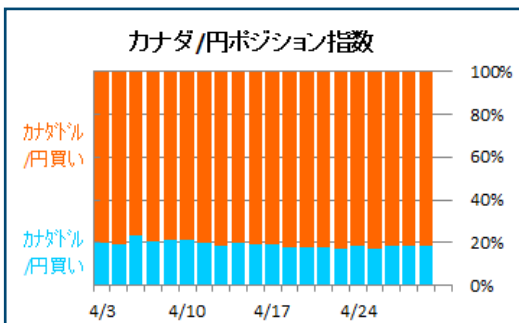
OPEN	50.69
HIGH	53.76
LOW	48.20
CLOSE	49.33

NYダウ平均

OPEN	20665.17
HIGH	21070.90
LOW	20379.55
CLOSE	20940.51

4月のポジション動向

5月のカナダの注目イベント



- ・3月加貿易収支(4日)
- ・4月加雇用統計(5日)
- ・4月加Ivey購買部景況指数(5日)
- ・4月加住宅着工件数(8日)
- ・3月加新築住宅価格指数(11日)
- ・4月加消費者物価指数(19日)
- ・3月加小売売上高(19日)
- ・加中銀政策金利発表(24日)
- ・OPEC総会(25日)
- ・1-3月期加経常収支(30日)
- ・1-3月期、3月加GDP(31日)

5月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

5月のカナダ/円は、トランプ米政権と原油相場が鍵となろう。トランプ大統領はアメリカ第一主義を掲げており、米国で保護貿易色が強まるようならば、カナダ経済にとって悪影響である。大統領は先月27日にNAFTAを現時点で終結させないとしたが、今後蒸し返された場合はカナダにとって不利な内容に改定される恐れがあり、カナダドル相場に下落圧力が掛かる可能性が高い。

また、今月開催されるOPEC会合にも注目したい。足元では、減産合意の延長について懐疑的な見方が出ており、原油相場が軟調に推移している。ただ、原油価格の一段の下落は減産合意延長の期待を高めることにも繋がる。もし減産延長で合意できれば、原油相場が再び上昇してカナダドルを押し上げる事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 79.500~83.200円)